

平成 28 年度弘前大学グローバル人材育成事業モデル事業

学生市民等協働プログラム報告書

申請者	所属部局・職名	保健学研究科・助教
	氏名	北島 麻衣子
事業名	アメリカの高度実践看護活動およびシミュレーション教育体験プログラム	

事業の概要とその成果

【構成メンバー】7名

- ・ チームリーダー (保健学研究科) 氏名 富澤 登志子 (准教授)
- ・ 指導教員 (保健学研究科) 氏名 北島 麻衣子 (助教)
- ・ 参加学生 (保健学研究科) 1名 (博士後期課程3年生)
- ・ " (保健学研究科) 1名 (博士前期課程2年生)
- ・ " (医学部保健学科) 1名 (4年生)
- ・ " (医学部保健学科) 1名 (3年生)

参加学生は青森での就職希望者とし、事前にイングリッシュラウンジにて英語学習をしてもらった。

- ・ 市民, 企業人 (東北化学薬品) 1名

【実施期間】 平成28年7月28日～平成28年8月4日

【事業概要とその成果】

○事業概要

本県に看護職として就職を希望する学生に、アメリカにおける看護教育現状調査ならびに英語によるシミュレーション教育演習参加を通して、国際基準の看護の視点をもった医療者の育成し、国際感覚に優れた人材を地域へ輩出することを目指す。

○目的

- ・ 多職種連携シミュレーション教育演習に参加し、アクティブラーニングによる主体的学習を経験するとともに、インタープロフェッショナルワークの実践を学ぶ。
- ・ 英語による演習の参加を通して国際的感覚や視点を学ぶ。
- ・ アメリカにおける専門看護師, ナースプラクティショナーによる高度看護実践活動の現状や課題を学び、国際看護の視点を養う。
- ・ 施設の見学を通して、日本の病院との相違点, 文化的な側面を学び、他民族国家の特徴を学び、日本および津軽地域の強みを見出す。

○実施場所

University of Hawaii (UH) SimTiki Simulation Center, UH Translational Health Sciences Simulation Center, Chaminade University, Castle Hospital

○実施スケジュール

8月28日(日) 移動日 青森-羽田-成田-ホノルル

8月29日(月) 病院視察 (Castle Medical Center)

8月30日(火) ハワイ大学医学部シミュレーション見学、翌日の研修ガイダンス
アメリカの看護師制度・高度実践看護活動に関する講義受講

8月31日(水) シミュレーション演習参加 (テーマ: 医療安全)

9月1日(木) ハワイ大学看護学部におけるシミュレーション演習の現状 (講義)

シミュレーション演習参加（テーマ：緊急時対応における他職種連携）

9月2日（金）シャーマナーデ大学シミュレーション演習参加（テーマ：医療安全）

9月3～4日（土、日）移動日 ホノルル-羽田-成田-青森

○研修内容および成果

1. シミュレーション演習の参加による主体的学習の体験

本研修では、アクティブラーニングによる主体的学習を経験する目的で、ハワイ大学看護学部、ハワイ大学医学部シミュレーションセンター、シャーマナーデ大学の3か所にてシミュレーション研修を体験した。

ハワイ大学看護学部は、多職種連携シミュレーションプログラム（HIPSTAR）を開発し、医師、看護師、呼吸療法士等の専門職者および、それぞれの職種を目指す学生とともにシミュレーション演習を実施しており、プログラムの内容およびその様子を動画で説明していただいた。その後、「緊急時対応における他職種連携」をテーマとしてチームを編成し、意識のない方に対する一次救命処置を行う演習に参加した。また、シミュレーション教育の効果的な手法を開発した、ハワイ大学医学部シミュレーションセンターおよびシャーマナーデ大学においては、「医療安全」をテーマに患者を訪室した際のリスクアセスメント、与薬時の対応等の演習を実施した。いずれの施設においても、様々なシミュレータ（マネキン）があり演習内容に応じて選択されていた。体験した演習では高機能のマネキンを用い、受講者の対応に合わせて、演習室横の操作室でマネキン（患者役）の身体状態（血

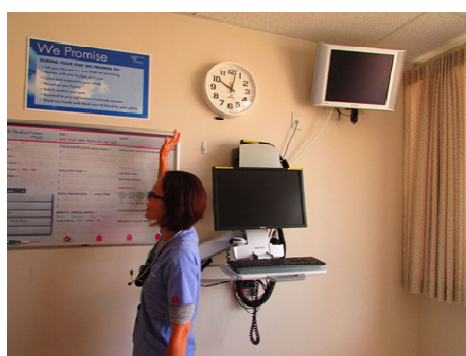


圧や脈拍等）を変化させたり、患者の声を発したりして会話が成り立つようにし、現実味のある状況で学生が学べる環境がつけられていた。実際にシミュレーションを体験した学生の意見としては、頭では理解しているつもりでも、状況に応じて患者の個別性に配慮した対応をすることに戸惑いを感じた、色々な状況を仮定して主体的に学ぶことができた、録画した自身の演習状況を皆で振り返ることで今後の課題を見出すことができた等が挙がっており、実際に患者と接する前にこのような状況を考えて行動し学ぶことの意義の重要性を感じていた。また、学生がシミュレーション演習を行っている間、参加教員はその様子を現地の教員とともに観察して演習前の準備や振り返り（デブリーフィング）の実際を解説していただき、実際に与薬時の演習では1名の教員がデブリーフィングを体験して、学生の主体的学習を促しつつ目標を達成できるような投げかけ、目標達成の評価方法等を教授していただいた。

2. アメリカの看護実践活動の実際および病院見学

ハワイ大学においては、アメリカの看護教育、高度実践看護師の種類と内容、取得方法、アメリカの救急／外傷センターでの実践状況を講義していただいた。シャーマナーデ大学

では看護学生がシミュレーション演習を通して課題解決に取り組む動画を見させていただいた。これはマネキンを用いるのではなく患者役を演劇部学生が行うことでリアリティのある状況をつくって対応させていた。与えられた課題に対して思考を巡らせながら即座に対応する姿を見て、研修に参加した学生は、自身で考えて行動する力の差を感じ、良い刺激を受けたようである。また、患者や他スタッフとコミュニケーションを想定し訓練する演習もあり、技術面だけでなくコミュニケーション能力が養われ、コミュニケーションによるエラーも防止できると感じていた。



Castle Medical Centerでは病院の概要に関する説明後、院内を見学させていただいた。

日本との違いとしては、全ての病室内に電子カルテ入力のためのPCが配備され、担当者やその日の目標を記載するボードが置かれており、患者とともにその日の目標を共有し患者自身が治療に向かうことができるような工夫がみられた。また、当センターには呼吸療法士として働く日本人もおり、活動について聞く機会も得られた。

本研修を通して、教育研究機関や特定機能病院のある弘前市にシミュレーション施設を置き、学部教育および卒業後教育において活用することの意義を改めて感じた。医療の高度化、入院期間の短縮化により、臨床現場では安全かつ高度な看護実践が求められるようになってきた。その一方で、患者の権利と安全の確保の観点から、学生が臨地実習で侵襲を伴う行為を体験することが難しくなっており、日本でもシミュレーションによる学習が重要視されている。現在、本学にも様々なシミュレータがあるが、技術の習得目的での使用が大半であり、本研修で体験したような主体的に課題解決に取り組めるようなシミュレーション演習は少ない。様々な患者様の状況に対応するためには自ら学ぶ能力が必須であり、今後このような演習を取り入れることで判断能力および臨床力を向上させ、卒業後、地域の優秀な人材として活躍できるような教育体制を整える必要がある。また、ハワイ大学看護学部のように病院の職員とともに研修を行う効果も大きいいため、本研修で同行した企業人とともに今後の課題として考えたい。